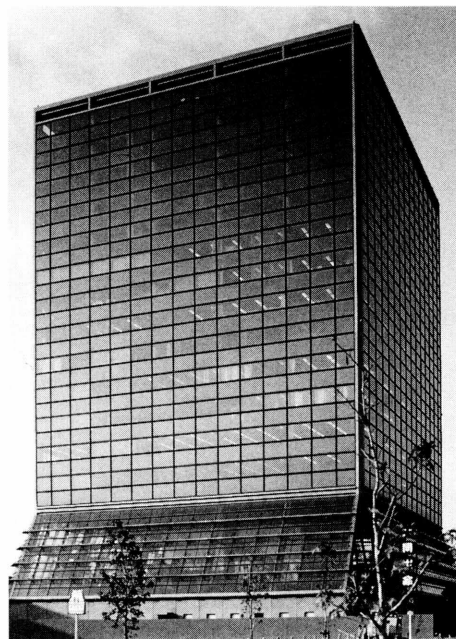


大同生命江坂ビル

所在地 大阪府吹田市
建物用途 事務所
竣工 1972年
所有者 大同生命保険相互会社
設計者 株式会社竹中工務店
施工者 株式会社竹中工務店
維持管理者 大同興産株式会社



〈審査評〉 大同生命江坂ビルは、昭和47年に竣工して以来22年間、足元のみどりに満ちたアトリウム空間が市民に開放され、親しまれている。平成5年、本社機構移転により、テナントビルとして再スタートしたところである。

建物は江坂駅と江坂公園との間にあり、人々は駅のコンコースから歩道橋で建物の2階レベルでアトリウム空間を横切り、江坂公園に行くことができる。公園は、平成8年度の完成を目指して工事中であり、公園が完成して始めて、竣工後20年以上を経て、この建物が周辺街区に対する核としての役割を果たすことができることになる。また、建物の真価が問われよう。

建物の最大の特徴となっている、公開空地の先駆けともいえる高さ17mのアトリウムの植栽は、現在なお非常に良くメンテナンスされ、その目的が十二分に発揮されている。これはメンテナンスを考慮した優れた散水・排水設備、照明計画、空調計画によるところが多い。

アトリウム及び建物の外装には、ガスケッ卜及び耐候性型鋼が用いられており、非常に良好な状況である。アトリウム外壁のメンテナンス通路は、外壁面の改装にも役立っている。建物の平面は一辺が40.5mの正方形であり、合理的な構造計画とともに明快でフレキシブルな建築空間を構成している。設備的にも中央部のコアと外周を取り巻く明快なループ幹線ルートが確保され、OA用電源の増設などに対する対応が容易であるなど、オフィス機能が陳腐化しないような配慮が随所に見受けられる。

ビルの歴史は、植物を育ててきた成長の歴史であるとは、ビルオーナーの表現であるが、この建物は、オフィスビルとしての諸機能も、時代を先取りした設計上の配慮が十分生かされており、情報化社会に対応した最初の建築として生きている好例といえよう。